

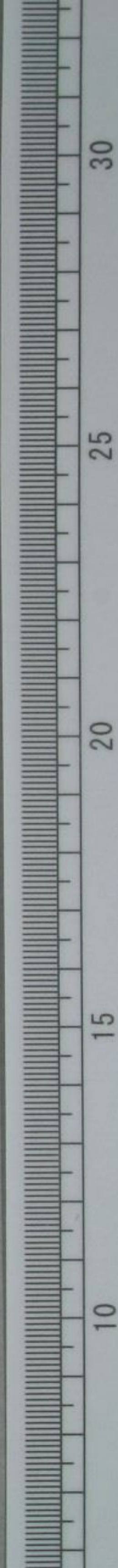


經驗醫療手引艸

五七六
廿ス

七

武9
435
7止



歌道早指南

全七冊

歌道書數品アリトイヘ庄六カレクテ初心ノ人分リガタキ故此度海ノ一數々讀方詞寄枕詞ニテ引哥ヲ入レテ委シク註解ス余ハ集之其外可作りヤウ口傳秘密ヲ委シク記スタトヘ歌學達人タリトモ誦ヘ置キ失忘ニ備フベシ

經學拔錦國字解

全一冊

書ヲ讀ムニイタツテ其語ノ註解ヲシルニ甚便リナリタトヘ從容ト云字ノ註解ヲ見タキトキハ右從ノ字ノ偏ヲ覺キ此書ノ偏冠目錄ヲニテ本支丁付ヲサクルベシ其解ヲ委クニス註解スベテ常談ヲ用ユ常人ノ語ヲキイテ早ク再ニ入リサトサンコトヲ要トススベテ經書ヨニコヘ遺忘ノ時此書ニヨツテサクラハ端の二見ツベシ四書五經小學近思錄其外讀書字引ニ用ヒテ可ナリ

見宜翁醫酉案

全一冊

古今一代ノ内難治ノ病症ヲ治シタルコト世人ヨク知ル所也其内治驗速カナルモノヲ悉ク松下先生集録ス大ニ治療ノ便リニナル書ナリ

庚申利生記全一冊

神道ニテハ猿田彥太神ト唱ヘ靈驗アラタナルコト世人ヨク知ル所トイヘトモト去リ世人トリチカヘ居ルコトヲ弁明ス昔ノ都或ハ神社佛閣ヲ立ル時多シハ此神ノ教ニヨリ靈境ヲ求タルユハ百姓タリトモ家タテニハ此神ニ台ヒ所ヲ求ムキヨシ本文ニ委シ終リニ庚申經ヲ附録ス

經典讀法早指南

全一冊

粹レテ國字ヲ以テ其義ヲトク初學ノ人此并ヲ以テ自得セハ書ヲ解スルコト水ノ下ニツクガ如シ四書小學近思錄湯學等ノ編中曉シガタキ語ニ至ツテハ諸論ノ弁同異得失ヲ評論シ他本ニアラサル註解ノ奧ヲキハムルニタトヘ博學ノ人タリトモ見スニバアルベカラザル書ナリ

諸人養生論

全一冊

號ニ貝原先生養生訓世ニ行ハルトイヘトモ六ヶ敷今ノ人ノ行ヒガタキコト多シ此書ハワヅカ小冊ニシテ人間養生ノ極秘ヲ述タリ此書ニヨツテ常ニ養生ノ道ヲ心カケバ無病長生ニシテ天壽ヲ得ルノ良書ナリ

あひもせず 七日録

あひの教

○ 大頭瘟疫を治する方

九丁メヲ

○ 嘔吐を止る法

同ウ

○ 同 胃冷疼を生し嘔吐すり奇方

同

あひの教

○ 小瘡の茶

十丁メヲ

○ 同もみ茶

同

門 435 7止

○ 小瘡妙茶

十丁メヲ

○ 同

同ウ

○ 同

同

○ 同

十丁メヲ

○ 同

もみ茶

同

○ 同

同

同ウ

○ 同

妙茶

同

○ 同

大なるよ付茶

同

○ 同妙方

十丁メヲ

○ 同

同

同ウ

○ 同

同

同

○ 同肉茶

同

○ 胼胝洗茶

十三丁メヲ

○ 子足の裏ひびくれ痛よ用茶同

○ 胼胝の茶

同ウ

○ 脾胃虚の服食并疝氣よもは

同

○ 脾胃の弱を調ふ

士亭メ

○ 秘結を治す

同ウ

△ もの教

○ もへくさの茶

士亭メ

○ 同

同

○ 同円茶

同ウ

○ 不言語病人よ言語茶

同

○ 健忘するを治す

士亭メ

○ 同方

同

○ 同法

同ウ

○ 同

同

△ せの教

○ 疝氣付茶

同

○ 同治する法

士亭メ

○ 同

同ウ

○ 同

同

○ 同付茶 十八丁メヲ

○ 疝氣の祕方 同

○ 疝氣を治す 同ウ

○ 疝氣小腹及び陰中痛汗出て死

せんとするを治す方 同

○ 疝氣大妙茶 十九丁メヲ

○ 疝氣寸白の妙茶 同

○ 疝氣の茶 二方 同

○ 舌隠へ落る人糞氣よて身體ふく

れ宛癩瘡のどく成を治す 十九丁メヲ

○ 喘息の茶 四方 十九丁メウ

○ 咳嗽の奇方 六方 十九丁メ

○ 同久く止らるを治す 十九丁メ

○ 消渴の妙方 五方 同

○ 小便通する茶 七方 十九丁メウ

○ 小便頻数日夜度を治す 十九丁メヲ

○ 腫氣小便通ずる妙薬 同

○ 遺尿 小便うらむを治す 同

○ 小兒俄る耳いとびと治す 同ウ

○ 小兒髪赤きを治す 同

○ 小便赤く濁と治す 九丁ヲ

○ 小兒此瘡よ付薬二方 同

○ 小兒の頭へ出る悪瘡と治す 同ウ

○ 小兒水瘡乃妙薬 同

○ 小兒くさ乃妙薬 九丁ヲ

○ 小兒驚風瘡と治す 同

○ 小兒驚風の薬 同

○ 小兒急慢驚風の治方 同

○ 小兒疝氣よて目不見時と腹大よ脹と

るよ付てよー 九丁ヲ

○ 小兒疝の薬 同

○ 同 桑山の方 同ウ

○ 又方 小兒万ニよー 世下ヲ

○ 保童圓 小兒一切の病よは 殊よ瘧よめなり 同

○ 五疳保童圓 二方 同ウ

○ 小兒五疳乳癖万病奇方 世下ヲ

○ 小兒五疳乳癖虫証瘡類一切諸病よ あよびやう

○ よー四又歳まで持茶よ用也べー 同ウ

○ 保童圓 八疳世海万虫よし 世下ヲ

○ 消瘧丸 小兒ニ考よ用てよ 同ウ

○ 保童湯 疳蟲を治する茶 同

○ 瘧の虫乃茶 世下ヲ

○ 小兒眼病八疳よよー 同ウ

○ 小兒疳癖乃茶 同

○ 夏想茶 八疳諸虫よよー 世下ヲ

○ 竹田八香 小兒万病よよー 同

○ 八香各方 同

○ 小兒古上れ瘡并鶴口瘡を治す 世下ヲ

- 小児舌白く乳と飲ざると治す 此等ナク
- 小児舌赤とぎの茶 同
- 小児口舌乃瘡 并ニ舌口瘡を治す 此六丁ナク
- 小児舌胎乃茶 同
- 兔血丸 瘡瘡妙茶 同
- 小児抱瘡眼入痛塞とると治す 同ウ
- 小児發熱 麻疹咽乾き虫氣あるを治す 同
- 小児乳を吐時と用る茶 此等ナク

- 小児むかぢりけの妙茶 同
- 小児瘰癧氣の茶 同ウ
- 小児四六歳まで是とざると治す 同
- 小児白痢 裏急と用て奇効あり 同
- 小児の痰喘を止る茶 此等ナク
- 小児臍間赤く腫を治す 同
- 小児瘡積を治する方 同
- 小児脹脹を治す 同ウ

○ 癬ひびの薬

卅八丁メウ

すの効

○ すせん白びやくの薬 三方

卅九丁メウ

○ 同腫物

同ウ

○ す白と治す

同

○ す白虫の内薬

四丁メウ

○ す白指さし込こ引ひ薬くすりるるよよ妙たふ薬くすり 同

同

○ す白よよ奇き妙めうの方

同

○ す白并なら菊きく虫むしよよー

四丁メウ

○ 虫す白ちゅうすはく積ちやく衆しゆよよ玄げん上じやう乃の薬くすり 同

同

○ す白を治する秘方

同

○ 兔うさぎ缺けつを治する油あぶらの法

同

○ 同療りやう法ぽう 二法

四丁メウ

○ 同油

四丁メウ

○ 乃の腫しゆ脹ちやう滿まんを治す

四丁メウ

○ 同小便せうべん洗せんを治する法

同

○又方

同ウ

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '○', '又', '方', '同', 'ウ', '丹', '堂', '校', '正', '藤', '井', '目', '求', '子', '見', '隆', '纂', '輯', '長', '岡', '恭', '齋', '丹', '堂', '校', '正'.



急の効

○大頭瘟疫を治する方

藤井目求子見隆纂輯
長岡恭齋 丹堂校正

時疫ときえきよよめて頭面項かしらおもてむねかど大腫おほいぶくれ疔瘡ぢうそうを生
ず是これを大頭瘟たいづうんといふ昔異國むかしいこく東師とうしの人ひとは病
と患うれふること多おほくき時とき一異人ひとりのいんじんは方かたを通衢とそうし書

付置つき置きくすり 黑豆くろあまめ 二合 耳州みみしゅう 二寸灸ふたすんあし 水 二盞ふたさん

入煎せんト徐々ゆるくと呷下のみと目めひ方を服くする人果くわして神効しんありと云々

○嘔吐おうと止る法

一枇杷葉ひ毛えと去り煎せんして飲のべし立処い瘧ちや

○同 胃冷い瘧ちやを生おこし嘔吐おうするよ奇方

一生津しん子じ 半夏はん 各おの五分 生姜しょう 十片じゅう 入水

煎せんじ空心くう心しんよ服くす。又また本香ほん少許せう加かへてを

炒ちやうなり

ひの効

○小瘡ひの薬

一赤小豆あ 生なまと炒ちやうると 各おの五分

粉こなよ一ひと胡麻油こよて甘あまべし

○同もみ薬

一犬風子いぬ 樟腦しょう 三分 白礬びやく 燒や四分

右布ぬのよ包つつもむへし

○小瘡ひ妙薬

一艾もぐさ 雄黄ゆう 檜ひの鋸のぎ屑くず 輕粉けい 粉こな じ

右調合てう口傳くちあり

○同

一 膽礬 たんらん 輕粉 けいふん 古樟腦 こしょうのう 白礬 はくらん 大楓 たいふう

子 八十目 右付べし

○同

一 鷄卵 けいりやう 三ツ燒黃 さんすつしょうわう 樟腦 しょうのう 硫黃 りゅうわう

大風子 たいふうし 八五 はちご 輕粉 けいふん

右 緋よつとと 瘡乃ととすべし。つとと

ひせんよハ 患 石菖根 せきしょうこん を湯よ沸し

瘡をあらひ 其上よ付めなり

○月

一 大楓子 たいふうし 樟腦 しょうのう 的礬 てきらん

水銀 すいぎん 胡椒 くわかく 的礬 てきらん 竹倉山椒 たけくらやませう

右 紙洞合し 布よつとと 子の中よて揉ひ

せんよ 摺付べし 七日が中よ 愈るなり

○月

一 胡椒皮 くわかく も 六ツ 黒燒 くろやう

右 あり根を 皮よ 雷丸 らいがん の油よて 煉合

包し 月也

○同

一 蒜香 壹斤 大風子 壹斤 龍骨 壹斤

硫黃 壹斤 雄黃 壹斤 膽礬 壹斤

右胡麻油にて煉布子包瘡を切て搗へ

○同妙薬

一 鱈の骨を炭焼よし白粉を五分一加て

葭系薯の汁よて付へ

○月大なるよ付薬

一 大黃 壹斤 雄黃 壹斤 硫黃 壹斤

黃柏 二兩 輕粉 一分

右細末し胡麻油よて煉て水鳥の

卵よて付へし妙なり

○同妙方

一 樟腦 壹斤 揚盧木のつまはご 壹斤

羊蹄子 壹斤 吳竹のつまはご 壹斤

腔粉 壹斤 硫黃 壹斤 大風子油 壹斤五分

右胡麻油よて解布子包毎日幾度も搗

付べし三四日よして愈。油乾ハ煉合又搗

付べし。經驗をも非のどし

○同

一 批粉 宣粉 硫黄 栝椰子 各七分

粘より油まで煉付べし。手の内へ付ぬり盡
なり二日三日は愈て再 不發

○同

一 列寄奴草をりと汁と付へし。桑糸とも二付
てよし。いのか基しきも愈るる妙なり

○同内茶

一 龍と黒焼より湯まで用田へし。内より
しとくく追出し再びとらうず

○ 膀胱洗茶方

當飯の葉を煎じ別煎滓まで揉付て洗ふべし

○ 子足膀胱切らるるを治す

一 山蜂の巢を黒焼そく飯まで煉ませ
切らよ付べし

○ 手足の裏ひじれ痛は用茶

一 山梔子 七ツ但煎次 栝椰子 七ツ
と瓦黒焼

上こ三年茶 ひきて ちくや 一女焼し

糊こよて丸まし。一夜よ止とせつ。一日よ三度
月七日の内よ平ひ愈やす

○脾ひ脏いの菜

一棟あての菜さいをつぶし汁あを付つべし

○脾胃い虚きよの服く食じ 并と煎せん乳にふもよ

一白しろ砂さ糖た云い孟ま水すい 三孟さんま卵たまご子こ 三ツ 餅もち 三ツ 小こき

名な丈ぢ火まよてころつつしし煉れん合あせせろく 和わ

ころり付つ壺つがよへへ釜かま。七日しちじつ極ごくよ食く盡じんへし

○脾胃いの弱じやくと調てうふ

一脾胃い虚きよ弱じやく飲いん食じと思おハハす食物じよく消しょう化くわせせず

して吐い。翻はん胃い。膈かく噎えつのごろろかかるる者ものよ三月

節せつの目め柳やなぎ枝えだと丸まる大おほ把たりりて湯ゆよ煎せんし。

湯ゆのろ緑ろくかかるると用もちて水みづ國くわ小せう粒りゅうなるる米こめを

煮ゆて飯いししす。飯いと簋けいよ入いさ海うみし少すこ乾かんく

比ひ白しろ麩ぼと油あぶらぶし一粒ひとつぶつつ徒た麩ぼののひひかかく

付つころり時とき晒ひ乾かんききころ飯いと之これ湯ゆ

と沸ゆししころろ其その中ちゆうへへ始はじめハハ浮うのの後のちよ

皆底へ沈む時釜の下に火を低くし、蓋をして蓋に湯の上へ浮り、湯の沸く時食して試む。硬心なく煮て熱する時病人はよく食さすべし。右のごとくし、うる飯と乾飯より幾度も思ふ時かくのごとく煮て食ふ。毎日頻りに食してむ妙なり。煮過ぎれば飯も付らざる。皆散てあり、

○秘結を治す

一 麻仁 實証の秘結より

枳殼 芍薬 大黃 麻仁 桃仁 各等分

右煎茶よりても散茶よりても用

△ 物の類

○ せへくさの葉

一 梔子をよき破り、其汁よて土龍の

黒やきと付べし。赤もよし

○ 同

一 黄牛の糞と藜蘆の汁よて付べし

○月内茶

一蒲黄がまのや くらやききまじづぬる湯ゆよて用

あつき時ハあよて用也

○色のいたぬ病人のいなきは香活茶

一人参 白朮 茯苓 藿香

本香 沉香 乳香 丁香

陳皮 枳實 葛根右の葉久し 其の葉はし

右の一盃入八分は煮し用也。何れの病やまひよても死ちよまづき色いろのいたぬ人ひとこして口くち嚙くはふる

よ用てのりる妙也

○健忘のりれ するこよ

一定心園じやうしんえん ふやれておはすれする二用

白茯苓ひやくふくろう 人参じんじん 麦ま 志し 五ご

石菖根せきじやうこん 三さん

右細末さいまつ一ひと蜜みつよて煮し。辰砂あんなと夜やと

のりのり湯ゆよて用也

○日方

一龍骨りゆうこつ 益智やくち 麦ま 志し 二に

右粉菜よして食後酒よて日よこめ夜
用也

日法

一七月七日よ蛛網をとりて糸の襟よ
へてとけバ氷く抱とよすれず

○健忘を治する法

一戊子日東へ向う桃枝を三寸伐採枕よす

〽の教

○疝氣付菜

一六黄もり 天南星 黄柏 川芎

胡椒 廉角 胡椒 胡椒 胡椒

右何れも水酒 酢よて飯粒と合く
をく水酒よして瘡よハ腹痛する処の一
粒上よえるべし

○疝氣を治する法

一毎年六月の朔日れ物と日七日の朝とよ
生の楯と外の皮をよ刻三白湯よて
吞べし

日
 一 列寄奴草 生よこも又ハ陰乾よても
 のごとく蒸ト月田へー

○月

一 胡桃の本 皮。葉。實。去皮とすり並

秋実とすり並。 製糸とすり並

兼て古れ附帯より並。 刻とて三味等あよ

調合。 好古酒とよく煮のこくはせん

一 麦二麦と服すべー
右三方民間ノ流傳ナリ

○ 疝氣付茶

一 槐 毛白 石灰 毛ト 沉香 毛ト

右 砕くよて 餅り 痛の上よ付べー 妙なり

○ 退白散 疝氣の祕方

一 橘子の核 薑皮 川練子

茴香 陸あよ辰 橙 台拾白

烏茶 玄胡索 台ぬま

右七味刻と細糸一散茶よても丸茶よて

も一貼やどつ用也

○疝氣せんきと治す

一燕あけびつる覆おき蔓と用皮を 患えん冬とう 疝せんとまり蔓る
去まててきささじ

荻け草たて きささじ 各各等等ををつつのの如如く

荻け草たて 禁きん拍ぱく 酒さけ酢す 赤あか小こ豆まめ 麦むぎ

餅もち蕎そば麦あえ 川かわ魚ういのの煎せんせ

○疝氣せんき小こ腹はら及及び陰おん中ちゆう痛いたと汗あせおて

死しせんとすするるをを治しすするる妙めい方ほう

一沙あ参とん 一一味味細こ末ま一一酒酒よよて一一七七づづ服はくす

立た処ちよよ愈い又また疝氣せんきよよて陰おん囊のう腫しゆうよよ皂さう角かく

と粉こなよよしして塗ぬ忽たち治しすするると妙めい方ほう

○疝氣せんき大だい妙めい方ほう

一良りやう香かう 十じゆ五ご 桂けい心しん 八はち分ぶん 黄わう藤とう 冬ふゆ酒しゆとあつ

榧つげ 上かみ皮かわと去ぬかきささみみよよしして施せああり

右みぎ細こ末ま一一熱ねつ湯とうよよて蒸むし寢ねささままよよ用もち也なり

是こゝも冷ひやざざるるぬぬよよすするるよよしし

疝氣せんきよよて虫むしの咬くはここと痛いたよよしし

月つき勝かちののいたいたととよよしし

志しららりり服はく 右みぎりり腹はらよよしし

靈祀くわくらんよよー

○疝氣せんき寸白の妙薬

一 鷓尾あやぐの根ね 蓮肉れんりく 舌生しんじやうよてちか

合粉くわふんよー白湯さゆよて用又煮せんても用也
又粉こなよー痛いたふよ付つて妙なり

○疝氣せんきの薬

一 樾くわ 皮くわと云 蕪粉うぼこ 甘草かんさう 甘草かんさう 甘草かんさう

生薑しやうきやう 皮くわと云

右をを練入ねいりみ合あよ煮せんーその酒しゆ小せうき

蓋うしよ武ぶッ入い毛けをニッよ分わ粉ふん昼ひちがん晚ばん寝ねさよ
三日さんじつよ用也

○同

一 疝氣せんきよ蟬せみ子こ殼が 燒粉せんぷよー白湯さゆよて
用。蜜みつよて煉ねても用。芥子かいしを加くわへ練り合

ても用

○名な隠いんへ落らくる人ひと糞ふん氣きよて身み體たいふ

くれ宛あて癩らい癩らいのどく成なりと治ちやうす

一 多葉たはつ粉ふんの莖くわと煎せんー浴あびるー

○喘息の茶

一 牽牛子 中分ハ香色病 大黃 中分

耳茶 中分 人参 中分 黃芩 中分

縮砂 中分 巴豆 二粒毒を他より

右細末一粘くよこ●先かたとよ丸一。用やう

ハ炊食めよ粥ゆとくハせぬさまよ茶ちよて用也

へ一男おとこハ十七粒ちゅう女ハ一ひと粒用冷ぬやうよすべ

○月

一人参 ちやくやく 苜蓿 ちやくやく 八味子 ちやくやく 地黃 ちやくやく

白朮 ひやくしやく 茵陳 いんちん 丁香 てうきやう 藿香 くわくきやう

黃芩 わうきん 香薷 きやうじゆ 甘草 かんさう 木香 もくきやう 煎せん用也

煎せん一 按ニ喘急ニ有餘不足ノ証アリ有餘ノ者ニハ前方ニテ瀉之不足ノ者ニ此方ニテ補之

○月

一 陳皮 ちんひ 厚朴 こうはく 塩 しほ 十五 生姜 しやうきやう 橘たち

右粉こなは 縮砂しゆくさう 十五じふごをちやく三盃さんばいよ煮に一いちは

汁じゆよて三さん盃ばいとあへ相あひまのどくどくよ一いち杯ばいづ用

○月

一 袖ゆの肉にくと乳ちゆう中ちゆうへ塩しほと入いれ黒くろ燒やきよ一いち日にち

三夜づ 白湯よて用ゆ

○咳嗽の奇方

一貝母 十反 杏仁 五反 薑炭 三五

右細末し 白湯糖と 生姜の絞汁よ入蒸
餡とねりて ばを糊よして 丸茶とすべし
大さ ○ ばごとく 一夜よ一粒づ用ゆべし

○又方

一咳嗽 痰多く 茶を服して 久く愈がる
者よ 凡薑 煎の 降比 まで 完全して

あるを 一個 丸 搗爛し 水二盃 入八分
煎じ 器よ入 宵より 外よ 露を 宜の時
空心よ 温め 服す 即治 する こと 妙なり 痰
嗽 いう かなど 甚き 者も 二三 服よて 効あり

○又方

一 枇杷葉 裏の毛を去て 餡と入水煎
服す べし 嗽止る なり 餡を 用す 水ばり
早よて 煎ずる も よし

○又方

一 老人久き嗽喘息卧せきぜんそくとあるハざるとあるハざるは

用て立た然らるる法はする方は 杏仁あんじん皮かわ尖せんをと

胡桃くるも肉にく湯ゆにつけて肉にく 各おの分ぶん研すて煉り

蜜みつ少すく許り入い入い丸まる食く後ごと卧ね時ときとよ

一粒ひとつぶ二粒ふたつぶ細こま嚼か生あやう湯ゆまで服くす

○ 咳せきの妙たぎ茶

一 芥さいを刻きと味あじ噌そう汁じゅうよて煮なて食くべー

○ 日

一 茄子かきの蒂つぼちやき粉こなよし生あやう姜しょう湯ゆにて用

○ 日久ひくく止とまるざるを治なす

一 紫苑しえんを味あじ用もてよし

氣きと下げ瘕えんと消しょう。渴かつと止と。肌かわを潤うるす

○ 消渴しょうかつの妙たぎ方

一 天花てんか粉こな消渴しょうかつ胸むね煩わづ熱ねつ津液あせきかき短氣たんき

天花てんか粉こな 人參じんじん 各おの分ぶんをと

細末さいまつ一ひと丸まる食前しょくぜんよ麦門冬むくわんとうの煎湯せんたうにて用

○ 同 一切さい此こ消渴しょうかつを治なする妙たぎなり

一 三黃丸さんわうわん

黄芩黄芩 春ハ四反 夏ハ六反 秋ハ六反 冬ハ三反

黄連黄連 春ハ四反 夏ハ七反 秋ハ三反 冬ハ二反

大黃 春ハ四反 夏ハ二反 秋ハ二反 冬ハ四反

右粉右粉一一丸一空心空心ヨヨ米泔米泔多多クク沸沸シシテテ湯湯ヨヨテテ止止丸丸月月由由べべ一一月月ヨヨ一一テテ愈愈

○日

一人一人参参酒酒ニニ浸浸シシ本本通通白白多多浸浸苜蓿苜蓿日日

拾樓根拾樓根 大黃大黃 石菖石菖 白多白多浸浸

沉香沉香 白木白木 麻麻 上上ギギトト下下をを

黄芩黄芩 黄皮黄皮 香香 芍芍 分分

右せん右せんトト用用ゆゆ

○消渴治法

一消渴一消渴不不止止下下部部虚虚損損すするる牛牛膝膝五五十十反反

細細ヨヨ切切細細末末一一生生地地黄黄とと搗搗絞絞るる汁汁

五合五合ヨヨ右右のの牛牛膝膝のの粉粉とと浸浸一一晝晝八八日日陰陰

一一晒晒一一炭炭ハハ又又汁汁ヨヨ浸浸一一其其地地黄黄のの汁汁

盡盡るるままででよよししてて蜜蜜ヨヨテテ胡椒胡椒のの大大ささかかどど

よよ丸丸一一空心空心ヨヨ温温酒酒ヨヨテテ一一夜夜ヨヨ二二十十粒粒服服すすべべ

○又方 瓜蒌丸

一瓜蒌根と薄く切人乳を拌蒸て後
竹瀝を拌て陰干し。研て細末。蜜
よて○は大豆を丸し。能く嚼化して服
すべし。或菜豆粥よて飲もよし

○小便通する茶

一田螺殻をすりて煮。麝香 田子の三ツ入

右粉よ一餅の中へ入紙よて蓋すべし
同

一茄子の花を蒸し服す妙なり

○月

一胡椒 胡椒 各等分

右糊を押しませ臍一寸下よむるべし

○大人小兒小便通せざるは奇法

一蜻蛉を粘よて作り餅よつくべし

才時をくりよして通するは妙なり

○小便通せざるを治す

一地膚子一合 細よ粉よし 白湯よて飲ハ

通す。又皮膚子の葉を絞る汁赤白痢を治す

○又方

一熱病よて小便不通死せんとするは蚯蚓を搗爛し冷水に浸し濃くして茶碗に半分やど服す立処は通し能熱を除く

○又方 老人氣虚して小便不通を治す

一黄芪 陳皮 耳艸 各等分

右三々やど一貼よし水一盃入六分煎し食前温服立処は通す

○小便頻數日夜度なきを治す

一葶藶と洗ひ細末し酒よて糊と解胡椒の大きき丸し空心は五十粒やど酒よても湯よても服す。七夜やど服して後愈べし

○腫氣小便通するゆえ

一冬瓜 黒焼二々一分 商陸 黒焼二々三分

茯苓 黒焼一々七分 赤小豆 黒焼三々

右四味合葉研よておろし酒よて用也べし

○遺尿 小便するを治す

一益智丸

益智やくち 龍骨りゅうこつ 牡蠣かきがら 川烏頭せんじゆ

右粉みよ糊のりと酒さけみて解ときて菜味さいみと丸まし。毎粒まいりゅう

用もち由よしべー()又方また赤小豆あかあずきの葉はと搗つぶて汁じゆと

服くすべー

○小兒せうに俄とに耳みみのこじと治なす

一大根いちだこんの葉はれ汁じゆと入いべー

○小兒せうに髮かみ赤あかきと治なす

一いのんどの油あぶらと拘くの汁じゆと合あせつく

へー。くろをぬり妙たふなり

一阿膠丹

阿膠あけう 牡蠣かきがら 鹿茸ろくじゆ 各おのづか等ら分ぶん

右細末みづこ一丸いちわん一煎湯いっせんとうよて用もち由よし

○小便せうべん赤濁あかよどろと治なす

一益母草やくもくそう莖葉せうはつとも搗つぶて汁じゆと取とり空すか心こころよ

服くす妙たふなり

○小兒せうに疔瘡ぢうそうよ付つ茶ちや

一赤小豆あかあずきの粉こな

輕粉けいふん 空くう子しよ
三寸さんすんひ

右胡麻油よて煉付べし妙なり

○同

一 緋桃花と蒸て陰干よして耳聾みみこ

加へ考のどとく煎じ用也

○小児の次へ出る急瘡と治す

一 龍の糞くらやま

接骨木の葉くらやま

こうせんのおよて煉合あを洗ひ捨付べし

○小児水瘡乃妙薬

一 松菜の蒼あを土器よ入て焼 水瘡

とよく洗ひて其上よふひけべし。或ハ

胡麻油よて解付るもよし

○小児くさ妙薬

一 的礬あ 大豆あ 白粉あ 烏賊あ

死よて付て妙なり

○小児蚊瘡疔を治す

一 二陳湯あ 杏仁あ 素白皮あ 天麻あ

よ加へ末して。是種あを一粒あ用

○小児蚊瘡風薬

一本香 陳皮 桔梗 白朮 茯苓

本丸 肉桂 茴香 檳榔子 荔枝皮

菘本 厚朴 人參 耳草 各三下

右煮湯よして用也

○小兒急慢驚風の治方

一五月五日午の時白頸 蚯蚓とれ去泥焙乾

細末辰砂等分加へ糯米糊よて菜豆

の大きさの丸し金箔を衣う一粒づ白湯

よて用也極て効あり

○小兒疳氣よて目不見時腹大よ脹よ

よ付てよし何れも胡麻油よて付べ

一 赤蜻蛉 昆焼 合飲の本 昆焼

郭 昆焼

右糊よ押ませ眉間よ付べ。病つよき種菜

も新きを付替じ。病瘥るよ志とぐひ古き

菜よ新きをまよ付へ

○小兒疳の菜

一くさ本此虫 昆焼 川鳥 大か 翡翠 八か

人參 あぶら

川芎 あぶら 耳竅 あぶら

山梔子 あぶら

右糊よて。是不とよ丸。一歳の數不と用也

○月素山の方

一 藜蘆 あぶら 一 煎漬 あぶら 若參 あぶら

菘本 あぶら 三錢 あぶら 三酒つけ あぶら

黃柏 あぶら 煨す あぶら

右そくいよて。是不とよ丸。小児の年の數

又疳にもよ是を用也。雀巢は妙なり

○又方 小児百こよ

一 馬錢 あぶら 藜蘆 あぶら

若參 あぶら 胡黃連 あぶら

若代 あぶら 赤三凌 あぶら

右そくいよて。是不とよ丸。辰砂と衣よして

十歳より内八年の數用也

○保嬰固 あぶら 一切小児の病より。疳は殊に妙なり

一 鯁の頭 あぶら 龍膽 あぶら 五倍子 あぶら

麝香 あぶら くさ木の虫 あぶら 若穂子 あぶら

葛 くらやき 葛代 其ま 胡黄連 其ま
 夜明砂 あり 雄黄 あり 芦會 其ま
 然 瞻 其ま 各等分粉より餅糊にて
 是種を丸し年の数やどつて用

○又痔保童園

一 麝香 かいろ 人參 キト 取草 六分
 栝椰子 五分 百草 五分 良香 五分
 ○保童丹 小兒百病者牙一虫氣より
 一 使君子 五分 龍膽 五分

黄連 五分 于姜 五分 胡黄連 各五分
 薏苡仁 木香 栝椰子 各二分
 右細末湯にて用也

○小兒又痔乳癖百病奇方

一 退積丹

明黄連 其ま刻 黄芩 五分 黑燒 五分 合 五分
 木香 五分 硫砂 五分 荻本 五分
 栝椰子 五分 丁香皮 二分 黄柏 二分
 薑皮 五分 前胡 一分 丁子 五分

使君引 まき 海參 二五

右細末 糊よて 是種よ飛 小兒三歳

までハ二三粒つ又歳よりハ六七粒つ白湯

よて用也

○小兒又痲乳癖虫疳瘡類一切諸病

よよ一四又歳まで持葉よ用也

一沉香 人參 爵金

桔梗 葛根 紅花

黃連 大黃 升麻

義本 茯苓 木香

栝櫚子 炙甘草 藿香

甘草 以上十六味 各等分

但病証よよめて葉味の肉或ハ加ハ或ハ減して

七分煎ぐよよても熱湯よて振出してもて用

○保嬰系 六海 泄瀉 万虫よよ

一乾漆 使君引 義本 三稜 熟膽

本香 胡黃連 熟膽

使君引 義本 三稜 熟膽

右細末一。是下とよ丸。毎粒塩湯よて用

○消痔丸 小兒ニ考テよ用テよ

一人参 白本 縮砂

香皮 本香 神麴 山查子 莪朮

糊よて。毛脱ニ丸一。用由。黄連を少加へるも

よし。冷る小兒よハ加へるす。○脾胃虚は

○食傷は。○腹痛は。○痔はよ。○

世信。○虫痛。考よ妙也

○保童湯 痔蟲を治する薬

一本香 莪朮 人参 霍香 丁子

但一人参ハ虚實よりのて加減す

右粉よ一。用由。吐逆よハ白朮とかり一。加へ。

身冷るるハ茯苓とかり。熱あるハ葛根と加へ

つよき吐逆よハ五味子 栝梗とかり一。

○痔の虫乃薬

一便君子 牛膝

栝榔子 香皮

丁子 莪朮 乾漆

右何れも純粉よし。丸一湯にて用也

○小兒眼病又疳よし

一人参火入り 葛根を分 白朮を分

黄柏外分香を分 茯苓を分 天花粉を分

木香を分 耳茶を分 山梔子を分

右粉よしして是貼よし。愈目外分縮よし。包 白湯

よて振おし日よ又六夜用神妙なり。泄瀉

よハ猪苓 澤瀉と加へてよし

○小兒疳癖乃菜

一赤大の肝を分 黄連を分

右糊よて丸一年の敷一日よ二夜白湯よ

ても乳よても用也

○夏想菜 又疳法虫よし

一藜芦 蝸牛此を分

取草がー加へ丸一用也

○竹田六香 小兒疳病よし

一本香 白檀 沉香 丁子 薰陸

荊芥 大黃 藜木 栝椰子

人參じんじんの入いれ丁子ていし 取とりとりり 取とりとりり

○又香名方 四季しきにに加か減げん 秘ひ傳でん

一本いっぴん香かう 計けい分ぶん 沉香せんこう 計けい分ぶん 丁子ていし 計けい分ぶん

乳香にゅうかう 計けい分ぶん 藿香くわかう 計けい分ぶん

右表みぎのへの加減かげんなり

一本いっぴん香かう 計けい分ぶん 沉香せんこう 計けい分ぶん 丁子ていし 計けい分ぶん

乳香にゅうかう 計けい分ぶん 藿香くわかう 計けい分ぶん

右表みぎのへの加減かげんなり

一本いっぴん香かう 計けい分ぶん 沉香せんこう 計けい分ぶん 丁子ていし 計けい分ぶん

乳香にゅうかう 計けい分ぶん 藿香くわかう 計けい分ぶん

右表みぎのへの加減かげんなり

一本いっぴん香かう 計けい分ぶん 沉香せんこう 計けい分ぶん 丁子ていし 計けい分ぶん

薰陸くわんりく 計けい分ぶん 藿香くわかう 計けい分ぶん

右表みぎのへの加減かげんなり

右細末みぎさいまつ一振いっしん出いし月つきいい後のちハハ蒸じやうて月つき也

○小兒せうじ舌した上の上の瘡かさ并な鴨もく口の瘡かさと治をす

一いっ小兒せうじ舌したの上の上に瘡かさ出いて乳ちを飲のみこことああここハハ治をす

る者もの又またハ鴨もく口の瘡かさと治をす方かた桑くわの皮かわ此こゝ

あまたごの汁を氷て傳べ一三四夜よて
 愈るあり。又桑白皮を粉よして生蜜よ
 て丸し口中は噉もよ一〇又白礬と鷄子
 酢の中よ置て小児の足底よ塗べ一
 〇小児舌白く乳を飲ざるを治す
 一 蠅の頭をすり粘り押ませ男ハた女ハ右の
 足よむるべ一

〇小児舌赤とだの茶

一 苦蕒根を陰干しして使す

鯉 細よけづり 芍薬よ合せ舌よ付べ一

〇小児口舌の瘡 赤口瘡と治す

一 柴胡 桔梗 牛麻 芍薬

葛根 大黃 各等分 振出一月由

〇小児舌胎乃茶

一 艾葉 炙 雀巢 炙 栝椰子 生

紅押糟 生 桑木 炙 蠟 牛 炙

各等分粉よ一 舌よ付切て服しては

〇免血丸 痘瘡処方

卷一 廿六

一 蕎麥粉 温飢粉 大麥粉 香芎
雄黃 ぐー 多 丸 して 加へ 二月 八日 よう くる 鬼の 血 よて 丸す

○小兒痲瘵目入痛ふさぐりつるを治す

一 白嬰粟 部五 白朮粉 部五

人参 部一 煮て 其汁 よて とき 是の うう よ付て 奇妙 なり

○小兒發熱一麻疹咽乾き虫氣あるよ

一 香附子 厚朴 薑皮 芍薬

葛根 黄芩 柴胡 耳朮 香芎

右 煮 じ 用 由

○小兒乳を吐 付よ 用る 茶

一 栲花 辰砂 香芎

右 細 糸 して 乳 の 先 へ 付て 小兒 よ 吸す べし

其 時 七 味 白 朮 散 と 用 由 べし

○小兒疳をらりけの妙薬

一 小茄子 辰砂

明神の 煮汁 よて 用。耳 かき よ 一川 せど 寒

卷一 廿七

の幼よてこきあふべし。小児咽喉せりつき胸
へ込上針とさうとも退きかこきを治す

○小児瘰癧の茶

一 薑 葱 煮 末 して 四 六 夜 湯 して 用 也 べし

○小児四六歳まで足立ぶらよ妙茶

一 六 加 皮 二 五 小 豆 三 五 分

右粉よきき五つ七日のち用也べし

○小児白痢裏急よ用て奇効あり

一 黃 芩 芍 薬 各 五 分 甘草 一 分

右 葱 七 月

○小児の痰喘を止る茶

一 葱 本 香 其 末 粉 よ 一 二 分 七 月 用 也

○小児臍間赤く腫を治す

一 杏 仁 研 爛 して 傳 七 月 用 也

○小児瘡癩を治す方

一 七 月 節 次 後 大 蝦 蟻 一 隻 首 を 斬 四 肢 を

去 腸 肚 を 去 漬 油 を 塗 七 月 用 也 入 終

蓋 焦 色 まで 炙 り 七 月 用 也 病 人 七 月

へ食さすべし。腹中の積盡下る。蝦蟆四五用一月の後形改り肥て其効を速かぐ。家教得効方

○小兒腹脹を治す

一 粟麦と炮粉は肺よりなるもよし

○癰の茶

一面及頸より白駝なる物生し。癰のてくからよハトを布ぎれよて拭指痛やどよして鰻鱺の脂を傳へし忽ち愈

すの教

○すの茶

一 赤藜多羸殼を黒焼 荳草を煎す

黄柏 其まじりて之を 蕎麥粉を煎す

右細末し茶の砂を温めて茶一服やどとこうし日用ゆ

○月

一 海藻 塩鯛首 烏分 笹 芥 各を焼

右漆塗の器よ入壺をかき一日三夜又夜

服す

○月

一 耳茶みみぢや 七かろ

肉桂にくけい 日

蕎麦粉そばこな

きぬ

人参にんじん きた

雄黄ゆうわう きた

右粉みぎこな 茶ちや 月つき 月つき

○寸白すんぱく 腫物しゅぶつ

一 鮎あな

くろまき

腫物しゅぶつ 付つ へ

肉茶にくぢや 月つき

破やぶ

酒さけ をを 以も てて 延の びび てて 用もち 由よし へ

○寸白すんぱく とと 治ち す

一 木き 通とお 大だい 栴せん 子し 木き 凡ぼん 明めい 桃たう のの 木き のの 皮かわ

苴しよ のの 莖き 行ゆく て

煮に じじ 月つき 由よし へ

加か 減げん ハハ 本ほん 香かう 小せう 耳みみ 茶ぢや 小せう 茯苓ふくろう 小せう 桂けい 心しん 小せう

商しょう 油ゆ 小せう 干かん 姜きやう 小せう 菘しゆ 本ほん 小せう 加か 入い 月つき 由よし

付つ 茶ぢや ハハ 右みぎ 小せう 黄わう 柏はく 牡ぶ 蛎れい 入い 粉こな 月つき 由よし 破やぶ 月つき 由よし 解かい

付つ へへ 一一 糸いと 乃の 寸すん 白ぱく 月つき 由よし 一一

○寸白すんぱく のの 内ない 茶ぢや

一 益やく 智ち 良りやう 香かう 川せん 芎きやう 商しょう 油ゆ

栴せん 梗けい 白はく 本ほん 名な 五ご

地黄 申分 白豆蔻 申分 車前 申分

右薬を洗へべし。多熱あるは柴胡ツ

羌活を五 獨活を五 加へ用由べし

○寸白指込引乗るよ妙薬

一 大山椒の葉を五 黃柏 申分

草橙 申分 蛇骨 申分 申分

右粉よし粘りて煉のへ腫らる上よ付べし

○寸白よ奇妙の方

一人参 茯苓 白朮 ゆづり葉

香附子 良香 川芎 枳壳

枳椇子 大冬米 粉よし 香附子 枳壳

右丸し用由べし。又煮ても用由。煮薬の時ハ

大冬米枳椇子炒なり

寸白系系出よし

一 于菟 茯苓 良香 茴香

枳椇子 肉桂 香附子

粉よし用由

○虫寸白積衆よ云上乃薬

但 虚弱ノ人ニ 用ユベカラズ

一 かつら志きこ拾五 白多ニ七日つけて又衣酒ニ七日浸し
右皮をこそげ中の白はろりと刻粉より一月也

○寸白と依する秘方

一 赤螺 表六分他し殼 厚朴 二分
桂心 二分 耳聾 あり

右細末し一日ニ三度湯に煎湯して茶ニ之
程づつ用也

○兔缺を治する油の法 兔缺俗にいざちとも

一 小麦 十五文 大麦 十五文 ともくむぎとも

多之四味入て天目よ二盃やどよ煎布よて
漉。其後椰子の油を天目よ一盃入てその
煎汁と合せて又椰子の油やどよ煎すじ
從いま分煎の時よ天目よ半分古酒を入
て煎つめ油分よ乳香と二分入拌 玄
べーけ底よるる滓ハ小児の小瘡よ付べー
○兔缺乃療法
一トを切血出ろとも其まはして。古酒を熱
洗へー其内よ血止るなり。其後三而をぬい

てよよいぶちの油を温め右布は浸し二へん
 付其上よ又右酒と二へん右布は浸し一日よ
 二夜づく付べし。口と切てより三日うら竹のごと
 してより粥を月由。又日月より、味噌汁よ
 て糕餅と。して用由。三日めよ上の糸を切。
 四日め中の糸を切。六日め下の糸を切。六日め
 一日室と七日めよハ愈る也。外^免缺^フ珣^コ達^トノ直
 傳^ヲ得^ルオレバ療^ハ治^ス
 ノ手段^ヲ委^カラズ

○目

一胡麻の油 五十目 松脂 辛目 葡萄酒 四拾目
 乳香 罌目 椰子油 拾目 小麦粉 九拾目
 右煉合器に入風不邪板をして口とをとりとく也
 一ととある方よりはさこよてはさこ切血のある時
 とくこれ右酒よて洗ひ。松右の油を人肌よ温め
 五方れ口へ毛のねよて曳くと合せ。ろくさ糸よ
 て皮肉のりを之所より。其上よ又右乃油を引
 其上へ瘡膏茶を紙よ付塗上よ志つくりこ
 付とくなり。其上へ玉子の白き布を紙よぬり

横紙より付へ。二月まで糸を切へ。但篋
 の先よて糸をうこじ見て糸がう繞くは
 作らうと知べし。其内繞ぬ糸あつハ切へうす
 又一日もして糸を切へ。切らる後も十日程の
 内ハよりれ粥と草の管よく用ひべし
 十日より笑するなれ 懐妊の人をよすべし
 ○すす口の油
 一 椰子油 鷄子 鶯子
 せんー合てぬるなり

烏巢先生著述書目録

醫書療手引草

上編 刊行 全二冊
 中編 未刻
 下編 未刻

同 續編 上編 全二冊 出来

同 別録 全二冊 出来

烏巢先生治験的功ナル妙方秘方ヲ録シテ諸門生數十人ヲ會シテ医療ノ
 發明治ニ益アルヲ論シテ是ヲ集メノス先生一代ノ精カヲ此書ニ入ラレタリ

張氏醫書通纂要 全五冊

張路王ハ古方ヲ發明スル清朝ノ國手
 後世方ニタイテモ治験的要ノ方ヲアツメ

医通ヲ選ズ昔時ハ價大ニ貴ク黄金三五十兩ニテモ唐本自由ニ得難カリシニヨ
 テ烏巢先生要ヲアツメ訛評ヲナシ治験ノ医方ヲ増シ加ヘ本書ヨリモ大ニサレリ
 當時ノ諸名医稱譽シタマフニヨツテ板行セリ

同 薄葉摺唐收入 全一冊

古方後世方大全書ナリ
 藥方悉クイロハ分ニシテ

治痢經驗

見ルニ早ク某箱ニ入ラセラル、ニ世ニ有來ル方書ニ大イニ
 内經金匱ニモトツキ治論
 ヲアゲテ名古屋丹水子
 二サレリニカモ其書体甚タ文雅ヲツクセリ

北山友松子等ノ治例方考ヲ弁明ニ痢ヲ治スル方ヲフニヒラカニス

和韓人參考 右合本 全一冊 緒若水ノ論共ニ韓人ニ會ニ諸參ヲ正セシ筆語而錄韓參唐參和參ノ品類悉ク真偽ヲ弁明スルノ書ナリ右合冊ニシテ安永四年按正發行

錦囊婦人医療秘録 全二冊 仲景已來諸医ノ治療ノ經驗方ヲ集録ス并ニ医案ヲ出し就中張子和治方

醫療衆方規矩大成 全一冊刊行 此書ハ烏巢道人著述ニアラスト云一氏手引草ノ中ニ往々參考スベキヨリ記ス

醫方後世方經驗之九散濕毒切經驗良方 療用深理ノ書ナリ又近世用ヒラルル丸散方ノ効驗著明ナルヲ搜リ求テ是ヲヒルニ附スルニ梅瘡ノ治方諸名家ニ秘セラ

ル某方下痢便毒或ハ古濕トナリテ百方治セザルモコレヲ用ヒテ治シ得タル濕トク一切ノ療治經驗ノ良方ヲ載ス

此書ハ比類ナキ治療ノ好本タリ既ニ香月午山先生ハ中世ノ良医人々普ク知ル所ナリ然ルニ其医書午山活套午山方考板行セシヲ見ルニ活套ハ右衆方規

矩ノ治論ヲ長ク書延タルナリ方考ハ衆方規矩ノ通リノ加減方ヲ書テ其下ハ妙ナリ

神ノ如シナド、書加ハタルニテ全ク衆方規矩ヲ二部ニ書延タルナリ古今名医ト

稱スル午山モ療治ハ衆方規矩ノ一部ヲ以テ濟サレタリト見ヘタリ實ニ此書ハ無

比ノ療治本ト言フ是ニテ御會得可被成候此事少モ偽リナシ右午山ノ書ニ引合

セ御覽候ハハ眼前相知申候

中條流産科全書 旭山先生 全一冊 産前産後ノ治療ハ中條流産科ト手引艸ニモ記セラル是ハ古書ニカハラス的然ニ産婦

ヲ治療シ覺ハタル方法ナレバツキタル事ニアラス實ニ婦人科ノ良書ナリコレヲ以中條

家ノ傳書ヲサツカリ秘蜜口傳ノ某方悉ク是ヲノセ旭山先生評論ヲナシ是ニテノ

産書ニ増補ス産方ノ大全書ナリ并小兒治驗板及流等ノ方附録ス

王機微義 明徐彦純 全部五十冊 刊行 黄帝内經ヨリ仲景傷寒論。金匱要略ホ

發明シナク後世ニ及ビ孫真人千金方。張子和儒門事親。王壽外臺秘要。嚴久河間。

東垣丹溪其奈諸名家ノ書ニ至ルニテ方論ヲ析衷シテノス内經。傷寒論。金匱。其外諸

ノ方論病門毎ニ附スルニヨツテ古方後世方ニ貫通シテ大ニ治療ニ益アル書ナリ

補錦囊外療秘錄 全三冊再版
腫物ヲ悉ク圖ニアラハシ治方膏藥ヲ詳ニ記ス附スルニ下疳便毒五痔梅毒瘡毒

切治方近世瘡毒家國手ノ秘方ヲサクリ求テ悉クコレヲ集メニス

錦囊妙藥秘錄 明王夢蘭著 全一冊刊行
單方古方疾病沉痾ヲイマス車神ノ如クの中ナル方ヲ撰ニ集ム

錦囊眼科秘錄 全一冊
眼療ノ秘書ニニ法多カラズト云ヘトモ此書ヲ以テ治スルトキハ治驗神ノ如シ

小兒方選 讚州良医松元直著 全一冊
古人讚ノ良医洛ノ良医ト京ノ大家ト等シク稱セラレタ元真老人一世ノカラ盡シテ

痘疹方論 全二冊
此方書ニ撰ス治驗的功ノ書ナリ痘疹ハ陳文中治方考案ヲ加ヘ和漢之治術奇驗ノ全書ニテ實ニ小兒ヲスクフテ起死回生ナサシムルコト神ノ

痘疹方論 全二冊
痘疹麻疹ハ古昔コレナキ病ニヨリテ古方ノ治術ナシ後世補苴兼施ニテ治論ヲアケ集方ヲ附ス中正ヲ得タル此書ニ過タルハナシト唐人モ稱ビタリ

痘瘡秘要 田幡仲益先生著 全一冊
世ニ治ヲアマツテ不救ニ至ル小兒ノ多キヲ數ビ多年是一心ヲユダシ

華佗中藏經 魏世名醫著 全五冊
張仲景ヨリ少シ後ノ人ト云ヘ古方ノ遺リテ見ツベキモノナリ其方法常例ニ

増補燈下集 全一冊
啓迪院道三先生治療ヲナシ効驗著明ナル秘方ヲ選ニ用ヒ方加減方詳ニ記セラル、書ナリ

刪補醫方選 全一冊
此書ハ衆方規矩ヲ能見タル後見ルニカ、書モレタル古方ヲ多クノスル療治本ナリ仲景ノ法論ニス附録

傷寒論國字解 雲林院作撰 全六冊
仲景ノ傷寒論ナリ悉ク注解ヲナス或ハ唐人本邦ノ古人モ未解ヲナシ得

此方論詳ニソノ正解ヲナスノ書ナリ

金匱要畧國字解

同人撰 全六冊

仲景ノ撰ヲサグリ玉ヒ ロゴアヤコリヲ
紅ニテ古今和漢ノ註解ニ論ニテ悉
ク正解ヲナス終リニハ脚氣論ヲノス

刪補方要

好生子著 全五冊發行

良医好生子世ニ行ル、回春等ノ雜駁
ノ書ニテ治療ヲ誤ルヲ數ニ仲景
ノ方ニモトツキ輯メタラザルニ後世トイヘドモ考究ニテ是ヲ撰ニ病門ヲ百廿ニワ
カチニテ有餘方ヲ附ス和漢名医ノ方考治論ヲノス本邦医道盛ニ良医
多カリシ時代ニ撰ニテ專ラ世ニ用ヒラレシ補瀉ノ偏見ナク古方後世ノ療治甚々
深理ナル書ナリ故アリテ書林 庫藏ニ納メテ久シク世ニ流布セズ今年先生ノ檢閱
ヲ得ニ題名ヲ改メ發行ス

經驗醫療手引草

全七冊 諸家ノ秘方即効アル茶方和漢ノ妙劑ヲアツム此
合二冊 書ニ因テ某治スル時ハ其治神ノ如シ尤病ノ名ヲ

イロハカニ日録ヲ出ヌヨリ其病ノ某ヲ尋ル甚即時ニ求メヤスニ救民濟世ノ良書ナリ
目ノ療治式法目ノ見ヤウサレ某洗クスリ
小諸家ノ秘書ヨリ効驗ノ方ヲ撰ニ出ニ板行ス

眼科醫療手引草

全一冊

目ノ療治式法目ノ見ヤウサレ某洗クスリ
小諸家ノ秘書ヨリ効驗ノ方ヲ撰ニ出ニ板行ス

衆方規矩方解補

全二冊

本邦中古良医賢達ニタシク病人ニ與ヘ試治
療ヲナシ覺ヘラレタル茶方ノ經驗甚深ノ
妙理アル一凡フ口授ニテ烏巢道人記ニ置レシ考解ナリ此書ノ治驗ヲ考テ治療
ヲナサハ其功スミヤカニシテ治ヲ過ツヘカラス

一茶方規矩

薄用小本 全一冊

古方後世方凡医家必用ノ茶方ヲ悉ク集
録シテイロハ分ニテシテ治療的実肝要ノヲ茶方
毎ニ記ス懷中或ハ茶箆ニ入テ此書ヲ推ルル時ハ方ヲサクルニ至テ即時ニ用ヲ達スヘシ

一錦囊日用良方

全五冊

古方後世方經驗ノ茶方ヲ集メノスルヲ凡八百有餘
方病門ヲ頌テ脈症虛実寒熱内証ノ要旨ヲ
トツテ是ヲノセ委ク加減方ヲ照レ婦人科小兒科外科眼科等ノ部門頌テ治方ヲ明カニ記

一張仲景傷寒秘録

全四冊

傷寒論ノ方治ヲ症ニ隨ヒ部類ヲワカツテ集
録ス傷寒中ニシテ病メル所ヲ委ク奉テ六
經ニ頌テ詳ニ記スルニヨリ是ハ陽明是ハ少陽ト夫々ニ此書ニヨツテ知ルノ便利也

仲景ヲ正方トシ佐スル千金方東垣丹溪子和其外諸医ノ治論ヲ記シテ驗方トス是ヲ以古方後世方ノ治方合セ見テ醫學ニ大ニ便利ナル書也

一 医療選方 古林見宜著 全五冊 先生六医門ノ中興起死回生ノ功人口ニ膾炙

頌チ仲景ノ方法ヲ集録シ其已後名医ノ治方緒論ヲ集木并ニ病門毎 脈ヲ詳ニ記シ妙方易簡ノ方灸法等ヲ附録シ古方後世方古今ニ通貫スル書也今板行ヲ改正テ世ニ發行ス

一 医療縦衡良方 全十冊 古方後世方治驗仲景方ヲ正方トシ東垣丹溪子和其外諸賢ノ方ヲ續方トシテ治術ヲ論シ方ヲ奉

是迄治レ得タル医案ヲ記ス就中張子和医案治方儒門事親ニ出ルヲ多ク又療用医方ニ於テ寶器モル一ナキ大成全之書也

一 錦囊小兒医療秘録 全二冊 鐵仲陽ノ方ヲ集メテ正方トシ佐スル東垣丹溪子和其外諸賢ノ方ヲ并テ并テ素問靈樞等

ノ要語ヲ引證シテ治療ノ便トス完ニ小兒ノ医療大成ナルモノ也 鐵仲陽ノ治法ヲ正方トシ丹溪東垣子和其外諸賢ノ方ヲ并ニ医案ヲ記シテ治術ノ考鑑ニ備フ

一 錦囊痘疹医療秘録 全二冊 鐵仲陽ノ治法ヲ正方トシ丹溪東垣子和其外諸賢ノ方ヲ并ニ医案ヲ記シテ治術ノ考鑑ニ備フ

古今ノ治驗ヲ悉ク見ルニ便利ニシテ大ニ治療ノ便トナルナル書ナリ

痘疹結要全書

加藤玄順 校閱

全二冊

痘疹ノ治方活知痘科鍵ノ外諸書ノ切要ナル治法ヲ披萃シ温補寒涼淨下其症ニ計リ題セル書未善尽サザル処多シ今此書校正増補至テ精細ニシテ實全書ナリ

外療手引艸

玄々斎道 人著

全三冊

外科經驗方法ヲ記ス就中梅瘡古淨治術的然タル方法ヲ詳ニ載セ金瘡打撲法ハ別ニテ季シシ秘蜜口傳ヲ記ススベテ試ニ用イ治療手ニ入タル經驗ヲ記スルノ秘本也 古方外科ノ療治本ニ奇効アル妙方一家ノ傳ニシテスベテタメシ試ニシテ治方ニ載スル

本邦老医經驗傳

鳥巢道 人著述

全二冊

本朝國手医方手ニテ遣イ覺エノ医按論治ヲ聞テ手引艸ノ作者謙斎翁ノ故年輯録セラレルニシテ不思候ノ奇効アル經驗ノ治法ノ書ナリ

玄治法印經驗医按

全二冊

和漢ノ医人書ヲ撰スルニ虚文多ク治療ノ玄深切ナラザル書多シ此書只スベテ文ヲカサラス難治ノ病症ヲ治シタル医案ヲ集録シテ治療ニ大ニ益アル書也

金匱小兒方

錢大用著

全一冊

陳氏錢氏小兒科之專門也後世ステ其治

方ニモトツカスト云フナレ然レ其書

詳ニナキヲ錢大用ナゲキ祖先ヨリ傳ルル秘方ヲ委ク著シ本ヲ撰ム

本朝ニ渡來シ本甚々稀ナルヲ以テ知ル人ナシ既ニ痘瘡黒陷内攻スルモノ不治

是ヲ救フ方ヲ知ラスレテ死ニ至ラシムルモノ幾クゾヤ此書ニ其治方ヲ詳ニノス

申齊先生公篤實ノ良医此良方ヲ知テ治ヲ施ス百發百中黒陷内攻ヲ治セズ

ナキ起キテ書ニモ著シ人ニモ語ラズモ救多其治ヲ得タル小兒ヲ見聞ス世久モ

皆知ルルナリ如此スニテ經驗ノ方ヲ集ムル書ルヲ以テ小兒方病ノ治法掲焉

脚氣方論 村菴先生 全三冊

脚氣ノ諸症甚多ク厥歴節霍亂食厥痰厥

誤ルルハ二彈指ノ間ニ命ヲ損ス恐ルヘキ症也是ヲ以テ村庵深ク歎シ年來此症ニ

心ヲ女子素稟ニヨツテ病源ヲ糾シ千金外基仲景ノ治方淵源ヲキクハ

非謬ヲ存ク方劑ヲ撰ミ集メ脚氣ヨリ生スル諸病ノ治術ヲ明カニスル

書ナリ脚氣トシテ脚氣ヨリ生スル病ヲシ此書ヲ熟讀レテ其法ヲ

詳カニヒハ治驗速ナルベシ

仕用書狀大全

全一冊

大日本道中行程細見記

全一冊

横本ヒラカナ付ニテ此書ヲ見レハ直ニ手紙

ヲ認メ候手本ニ成ヤウニ仕候

年頭狀ヨリ歳暮ニテ四季折々ノ文商人取引

手紙世間日用ノ文通不洩集ノ上タルカタ

披露狀ヨリ同輩下輩品ヲ書分ケ皆當世ノ

風ニアヒ使ヤウ認メ何様ナル六カレキ手紙ニテ

モ文言即時ニ出來ルナリ呼ニ部外ヲ出シ甚見

字ノ其外書狀認ル便ニナルヲ委シク記ス

筆道秘言古早學子文

全四冊

刪補錦囊外療秘録

全部三冊

入木道ノ秘密口傳悉クアラハシ格法七十

五點ノ筆法奥義ヲシルシ諸流ノ筆形

筆跡ヲアツノ筆道訓ノ傳授正軌八景

詩歌極則四昧千字文ノ國字引能書

手習法名言等ヲ集メ載ス此書ヲ見テ手

跡古スレバ上達スルヲ神ノゴトシ其外

詩歌ノ仕ヤウ石印ノ彫ヤウ等ニテ初學

便ニ成ルヲ記ス書ナリ

先ニ行ハルハ外療秘録未全備ヲツクサ

ル故此度増補ス 癰疽腫張ハ元ヨリ下

府便毒五痔楊梅瘡等近世瘡毒家

名醫ノ秘セラルハ良方ヲ探リモトメテ

病論治方ヲ記シ膏藥油藥針灸ニテ

秘密口傳ヲモラサズ集ム外治病症此書

ニモルハナシ實ニ無双ノ書ナリ寛政ノ校

正増補ニテ御坐候書林 吉文字屋市兵衛藏版

